

# 交通網整備の急務

長崎縣土木課 古川 縁 吉

縣に奉職して二年、肩書の私が首題に就て一言なからむとす、當否の如何に不拘、讀んでくださる人があらば、私其のものゝ感謝は微としても、其人は賢明なる人として、衆人の上に立つて然るべき人と、眞の敬虔が其人に向けられる事と、私は確信して疑はない。

.....

國が生物であれば、生物の活力を存續作興せしむるに血液と謂ふ生産があり、脈膊と謂ふ交通網があつて、有効に多量の生産血液を、消費に向け、敏速連絡せしむることに據つて生物の活力が彌が上に旺盛となり行くのであるが如く、國の活力も生産の資源に完全なる交通網が敷設せられて始めて活氣旺盛することゝなる。

交通網の完否は、人體に於ける脈膊の如く尤も重要な位置にあるに不拘動もすれば、今尙輕視さるゝの傾がなきにしもあらずである、軌近汽車汽船等最大馬力の交通機關ありと

雖、之等は直接國營、又は直接營利的關係上稍見るべきものありとするも、比較的當面營利に遠い、道路の交通網にありては甚だ遺憾に堪へないものが多々あるのを悲しむものである。

組織せられた人體活力の淵源が血液生産に至大の關係を持つが如く、國富の眞の淵源も生産を措いては他に何物をも發見することは出来ないのである、然し血液の原料たる營養素は筋肉滲刺なる手足に據つて得られるが如く、最善なる道路が生産地に縱横斷して始めて最大なる生産が可能となり、敏速なる輸送が、消費地へと行はれるのである。

然し豐沃なる處女地は、原始のまゝに置き曝らされ、知識を需むるに智識なく、文化を需むるに文化なく、偶に智識の士を胚出して、文化に憧れて都會に集中し、後には原始に甘んずる農夫の過大な肉彈的勤勞と、詩人、畫人の、血を躍らす風光が残されるのみである。

人口過剰も、危険思想も、勞働問題も、小作爭議も、化學の根據に確定した生産より來る眞の富の前には一埒りもなく解決のつく事と思ふ。

意地の悪い母は泣く子を打つて泣かざらんことを欲し慈愛に満てる母は乳を與へて泣かざらん事を望む。

進んで乳が過剰すれば飢へたる他の子にも且つ與ふ。

何れが正か、何れが否か。

パンに飢ゑて叫ぶ細民にはパンを先づ與へよ。

然し乳を與ふるにも、パンを與ふるにも、乳の生産がありパンの生産があつてこそ始めて泣きを静め、叫びを静める事が出來ると謂ふものである。

巧利に長けた都會人と、都會に憧着した爲政者とが、血眼になつて全々反對な行動を採る。

爲政者が新設の道路を計畫すると、巧利な都會人は犇々と新設道路を目懸けて嵩り集り、道路敷にも、我れ先きにと建物を建てる、爲政者が公共の爲めだから安い所で移轉して貰ひ度いと謂へば、都會人は何んの彼のと自分の缺點は爲政者の缺點の如く謂ふて移轉料を糶り揚げる、いさ道路か貫通となれば片口から軒先は道路上に突き出す、之れが巧利に長じた都會人の自己本意な赤裸々な心理である、正しい意味から

謂へば社會人の大半は生産から消費へ取次ぎを業とする商人である、甚だしきは取次ぎの取次ぎをなして生活して商人もある之等は消費者としても餘り有難くもない、消息者だ、寧ろ寄生蟲だ。

眞の國富の淵源が生産にありと斷定されたなら今日の都會人は亡國の分子と謂ふに到るのである。

若し最善なる交通網が生産地より消費地へ完全に連絡せむか、生産品は、滑達せられ、如上の取次なく消費者へ供給せらるゝことゝなる。

斯くして商人の生産業働員となり、生産品は僅少の生産費を負ふのみにて消費者に渡り、會て絞血せられた仲介人の利益は双方に分配さるゝことゝなる。

之れが眞に全人類の幸福であり、國運作興の唯一無二なる眞の淵源となるのである。

然し都會集中の憧着は餘義なく教育となり、科學となり、文化となつて、集中から、集中へ、狹隘から、狹隘、危険險から、危険へ、容赦なく進んで行く時、始めて爲政者に氣付かれたのか都市計畫である。

都市計畫可なり。新稅可なり。

然れ共消費地の計畫が必要であると共に、生産地の計畫

必要でないか、國富の淵源が生産にあるとすれば、生産地の

てならない。

計畫を、都市計畫の如く、奈何せば都市の能率を昂げ得るかを、奈何せば生産地の能率を昂げべきかも考へるのか、私は思慮ある人の永遠な、そして價値ある計畫ではないかと思ふ。

孤立せる生産地、孤立せる港灣、夫等有爲の發展を交通に杜絶せられ、長年の恨みを、地方人の胸に幾代か秘められてる處が、日本狭しと雖、私は未だ多々あると信じてゐる一人である。

人口にのみ注意して、生産地に注意せざるにや、都會には比較的研究所された都市計畫が、而も爲政者直接に施行せられつゝあるに不拘、吾人が日常食卓に登る米麥蔬菜魚類等の生産地たる田園、港灣等は何人が研究しつゝあるや、依然として戸長役場式の自治機關に委せられた儘である。私は自治體と言ふのが解せぬ、市町村は獨立分離した市町村で、國の市町村ではないのか、國の市町村でないと言ふものがあり得ない限りは、恐らく、資源に枯喝せる、智識に乏しい市町村に

交通網の管理を寧ろ放任するの態度たるや、之をしも是となすやそれは市町村住民の責任もないとは謂はぬか、私は無智な者を責むるより、有智の者を責むるが、正しい様な感がし

吾人の生産は市町村の生産であり、市町村の生産は取りもなほさず國家の生存であらねばならぬのである。

生産が國家の生産であり、國家の富源であるとすれば泥濘車輪を没し、急阪空車を挽く能はず、屈曲歐字に似たる生産地の通路を何が故に放任する、之をしも生産を強要するは木に據りて魚を謂めよと謂ふ將に此の事であらう。而も現在生産地は生活の脅威の前に外出され、僅か六年の義務教育をも卒へしめず職に就かしむの有様である。此の秋に當り、此の生活難の叫びの中に新税を賦課してまで都市計畫をなすの意義と必要とを自信し得るならば、疲癯の極に面してゐる生産地に對しても相當生産地計畫も考慮して欲しいものと思ふ。

然し當面の問題として實施せられつゝある都市計畫交通網の一部に交通量調査なる事業を實行せられてる尤も此の交通量調査の内容には私の謂はんとする目的も含有せられて居るものと信ぜざるを得ないけれ共其の方法に到つては疑はざるを得ないものがある。

私の目的と謂ふものは、生産地と、消費地(需安地)とが最も時間的に、最も努力的に、最も經濟であり得る交通網の調査を慎重に遂げたる上の交通量の調査に移るのが手願と思

ふ、若し現在道路を基準として交通網の計畫を樹立するに於ては其の大半は誤れりと謂はざるを得ないのである。

夫れは所有權の疆界、又は交通容易の自然道路から發達した歴史的道路が果して如上の意義に立脚した、交通網であるかないかは寧ろない方に信を措いて過ち無からしむと思ふ。

計畫可なり、恐らく計畫なき實行のある筈なく、實行なくして、何んの効果ぞや、だから計畫可なりと雖、其の計畫たるや、萬一誤りたる計畫が樹立せられむか、其の實行に、其の効果に必ずや不成績を出現すべく、其の報酬として、爲政者は困憊と疲勞に悩む、國民は、勞苦の増税に塗炭の苦痛に悩む其の慘みな梯が能へらるゝのであらう。

彼の北米合衆國か無人の平原に大道路を敷設したる如きは、今日謂ふ交通量調査と幾千の關係がある、無人の平原に大道路を敷設したる、人に交通を眼目とせず、生産地と認めたるが故にして、世界に於ける富の王者として捷ち誇り得るのは、如斯き大膽なる先見の明か今日をあらしめたのである、現在の交通状態を確信して歩を進むるものから觀れば恐らく狂氣の沙汰と謂ふであらう。

都會何ものぞ、現在の都市と久遠の都市とは都市の要素と就立が異なるのである、久遠の都市は、久遠の生産と、久遠の

消費が授受せらるゝ所で有なければならぬ、生産の烈しき處、消費の繁しき處に富は醸製され、新たな交通網も新たな文明も、創設せらるゝのである、彼の和蘭陀國が、自然の和蘭陀國に非ずして、和蘭陀の和蘭陀たる觀ある實に富の力である和蘭陀が海面より低く、恰も湖沼の如き和蘭陀が能く洪水の難を免るゝの設備たるや、他なし、富の力で、富は之れ生産の醸製した富に外ならないのである。

私は都市計畫を否認するものでは決してない、都市計畫の交通網計畫を無視するものではない。

交通網の計畫が、富の淵源たる生産の根底に確實に立脚して樹立せられ、生産と消費が圓滑に連絡する交通網計畫でありたいと思ふ、又あらねばならないのである。だから私は交通網の計畫を樹つるに、先づ無人の地圖と見て大膽に、生産地と消費地とを連絡せしむべく線を引きたいと思ふ。

然し之れが實行には經濟的にも勞苦的にも多大な困難が伴ふことは勿論である、現在道路を改築するやうには容易に行かない、然し困難なる故を以ては辭せない、現在道路を改築し又改築し亦改築するが如きは寧ろ不經濟の極みである、それが見えない様に杜撰な數字の計算は恐らく思慮あるものゝ採らざる處であらう。

然し前述の通り無人の地圖に定規を以て線を引くが如き、網の大設計は經濟の關係もあるから、直ちに實行を逼る通譯には行かないが、其の自信ある最善の交通網を計畫し、廣く民衆に周知せしめ、然る後適當なる建築物法乃至は土木法規を定むべきものと思ふ。

尙終りに附言すべきは都市中心の交通網計畫を、生産地對法市の關係に立脚した交通網計畫たらしめ、進んで、孤立した生産地の、都市對交通網計畫が爲政者の念頭に深刻に顧慮せられむ事を切に望むものである。

駄言であるが都市に於ける交通網の實施と、田舎に於ける交通網の實施とが如何に經濟的に格段の差あるかを、前者の莫大な敷地買收費と、莫大な移轉費に替へ、田舎の道路敷は大半地方民の寄附になり、地方民の賦役現品に工事の遂行を見つゝあることを。

×

×

×

×

×

### ◎海舟翁遺訓

- ▲時勢を察し機先を制することは必要なれども人は精神を以て第一とす
- ▲文盲卑俗の徒の談話は真面目にして中に人世の大道理を含有す
- ▲心を明鏡止水の如くなすを以て外交の秘訣となす
- ▲窮屈切迫は天地の常道にあらず
- ▲世運は一轉する時ありと知るべし
- ▲我が西郷に及ばざるは大膽識と大誠意なり